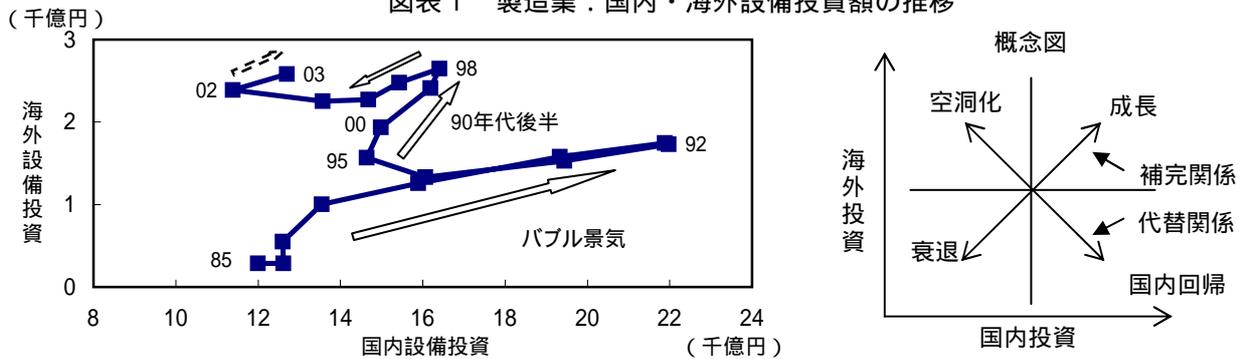




「空洞化」vs.「国内回帰」?

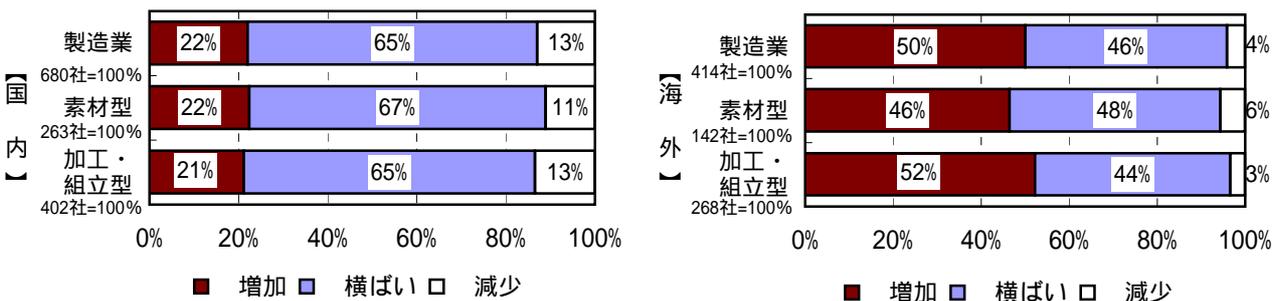
- ・ 製造業の生産活動に（海外から国内にシフトするという意味での）「国内回帰」が生じているとの議論を耳にするが、製造業における国内、海外の設備投資の長期推移をみると、どちらか一方が増えて他方で減るといった代替的な動きをした期間は殆どなく、所謂「空洞化」や「国内回帰」といった現象は個別事例で存在しても製造業全体の動きとしてはみられていない。実際、海外生産が進めばその分、国内生産が剥落するのではなく、資本財、部材や他の製品輸出が増えるといった形で両者は相互補完的な関係で推移してきた。
- ・ こうしたパターンが今後も続くのかを考察するため、日本政策投資銀行が実施した「設備投資行動等に関する意識調査」の結果をみると、まず、中期的に国内での設備投資を現状以上に実施すると回答した企業は87%、海外での設備投資を現状以上に実施する企業は95%となっており、国内外ともに増加を見込む企業が減少を見込む企業を上回る結果となっている。次に、国内、海外両方に対して回答のあった製造業405社について両者の関係をみたところ、海外設備投資を増加させる企業の8割強は国内を増加又は横ばいと回答しており、同様に、国内設備投資を増加させる企業の殆どが海外を横ばい又は増加と回答しており、国内外の設備投資が代替的な関係にあるケースは少ない。これは素材型、加工・組立型ともに同様の結果となっている。
- ・ 今回の調査結果は、中期的には従来同様、国内外の設備投資が相互補完的な関係をたどる可能性が高いことを示唆しているものと思われる。

図表1 製造業：国内・海外設備投資額の推移

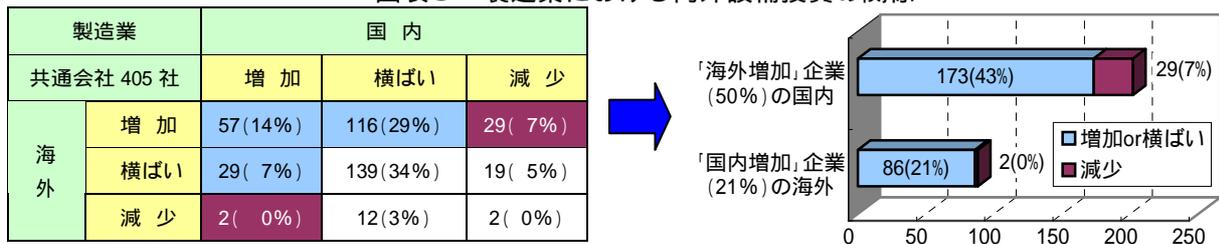


(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」、経済産業省「海外事業活動基本調査」により作成。
2. 1985～2000年度は後方3年移動平均値、2001～以降は実数値（一部推定）。

図表2 中期的（概ね2～3年後）な設備投資の動向（現状との比較）



図表3 製造業における内外設備投資の関係



(備考) 日本政策投資銀行「設備投資行動等に関する意識調査」（2004年11月調査）により作成。

【調査部(産業調査担当) 増田 真男】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp